公表

事業所における自己評価結果

事業所名		もりもりの森 森のにじ			公表日 2025年 3月 24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	・パーテーションで区切り工夫している。	・今後利用者が成長するとせまくなるかもしれない…。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・多めに配置している。 ・行事に合わせて職員の数を増やしたりと工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		・その時々で分けているが、子どもがはっきりとわかっているか疑問。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	・空いている時は相談室、児発の部屋が使用可能。 ・状況によって、個室を作ったり等の工夫をしている。 ・相談室やパーテーションで区切る等の工夫がされている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・帰りの送迎時やHugなどを通して困っていることなど相談を気軽に出来るように声掛けしている。	・働いて1年もたっていないのでどう工夫しているのか分からない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・意見を取り入れてくれることが多く、意見も言いやすいし、上司がすぐに実行してくれるのがありがたいと思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		・働いて1年経っていないので分からない。 ・分からない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・努力している。そのとおりにならない事も多々あるが…。 ・hugにて活動内容を月ごとに入力されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・作成時に皆で確認するので、共有して支援を行える。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・話し合う機会が多く、情報共有しながら一人一人の児童にあわせた支援の工夫をしている。	より明確にアセスメントできるツールがあると良い
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1		・分からない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・皆で意見を出し合い決めている。 ・月に数回常勤職員で話し合っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・チームの連携はとでも上手に出来ている。 ・必要であれば実際にやってみて、意識や共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・工夫した方がよかったこと等、意見が出る人が多い。 ・送迎後に1日の振り返りを行い、日報にまとめている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・不穏時の記録をとり、原因を見つけれられるよう取り組みを始めた。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	2	2	・家族支援は難しい家庭もある。	・分からない。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・おやつでは自分で何が食べたいか選べるようになっている。また、自由遊びのおもちゃを選びやすいようにカード提示している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		・学校のホームページやまちこみメール、保護者からの情報共有をしてもらっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		・児童発達に就学前の様子を聞くことがあり、情報共有に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	2		・まだ学校を卒業した児童がいないので分からない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		心理士の巡回指導にて定期的に指導助言をもらっている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	1	・公園で地域の子と関わる（遊ぶ）機会があった。 ・学童さんとの合同の避難訓練。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		・分からない。青梅市では協議会の開催が無く、連絡会議のみ参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・送迎やHUGを通してお伝えしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4		年間で計画して茶話会などをできると良い
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5				
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5				

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		・保護者同士の交流の場は設けられていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		地域参加型の行事はないが、見学は随時受け入れ可能となっている
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・防災訓練をしていて、避難など反省を生かしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	・医師の指示書は見られないが、アレルギーに関しては職員が周知し、登所する児童にアレルギーがあるのか分かるようにしてある。	重度アレルギー児は現状ではおらず、保護者からの情報が主となっている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		災害時のマニュアルやなどの説明を定期的におこなっている
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・ヒヤリハットを書きだした後、そのヒヤリがないように職員同士意識出来ていることがある。	ヒヤリハットをもう少し細かく出すようにして注意を促すことも必要
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・年1回研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			・契約時に説明と必要であればサインをもらっている	